

あれこれファレンス



ミニ図書館だより【なんでも質問箱 No. 222

平成29年2月1日
熊本県立図書館発行

“レファレンスサービス”ってなに？

図書館で所蔵しているたくさんの資料を活用して、皆さんが調査したい内容をより早く正確に調べられるようお手伝いするサービスのことです。

この「あれこれファレンス」では、過去に受けたさまざまなレファレンスの中から、いくつかの興味深い事例をピックアップして紹介します。へえ～こんな質問も図書館で分かるのか！と、楽しめること間違いなしです。

Q. おたずね

くまもと文学・歴史館で夏に「少女雑誌」に関する展覧会が開催されていましたが、その中で、岩下小葉という珍しい名前の方が紹介されていましたが、どんな人ですか。



A. こたえ

平成28年7月～8月に開催された「永遠の乙女達へ 少女雑誌とふろく展」では、大正・昭和、そして現代へとつながる少女雑誌とふろくを展示し、その中で、熊本ゆかりの作家の紹介や、著名な文豪が執筆した少女向け作品なども紹介されました。文章では、川端康成、林芙美子、中原中也など、挿絵では竹久夢二、落谷虹児、中原淳一など錚々たる人々が寄稿、挿絵画家として活躍しています。その中に、熊本ゆかりの作家や画家も大活躍しており、長田幹彦、高群逸枝、小山勝清、蓮田善明、戸川秋骨、木下順二等の名を見つけることが出来ます。お尋ねの岩下小葉も熊本ゆかりの人物の一人で、「少女の友」の第2代の主筆になった人物です。歴代の主筆の中で最も長い期間その職にありました。

岩下小葉は、明治17年(1884)11月、現在の山鹿市のお寺(善教寺)に生まれました。早稲田大学英文学部に進学、在学中にキリスト教に入信し、教会活動を通じて児童文学に出会います。その後、島村抱月の推挙によって実業之日本社に入社が決まりました。

入社した岩下は、『日本少年』『少女の友』『婦人世界』の部所を経験しましたが、『少女の友』に対する思いが深く、情熱の限りをつくし、その編集と読者との交流に努めました。

「少女の友」の愛読者大会を全国各地で開催し、愛読者会を「友ちゃん会」と名付け、「友ちゃんの歌」を作って共に歌い、愛読者の結束は大変なものでした。付録にも趣向を凝らした「少女の友」。新年号付録に「トランプ双六」をつけたことで、税務署(大蔵省)から骨牌税(かるたぜい)法違反嫌疑がかけられてしまい、全ての付録を回収することになりましたが、絶大なる協力体制が発揮され、驚くほど速やかに回収が行われたそうです。

また、「少女の友」編集者は、毎号小説を発表する義務があり、作家・翻訳家としても活躍します。バーネットが大好きで『秘密の花園』や『漂泊の王子』などを翻訳し、日本の少女達に世界の文学を広く紹介しました。

大正から昭和にかけて少女たちの生活規範や文学・芸術を紹介し、生涯をその読者に捧げた岩下小葉。多くの方に知っていただけたらと思います。

『乙女のふろく』726.5/ム 『少女雑誌論』B367.6/オ 『少女の友』051.8/ヅ

『少年小説体系 別巻5』913.6/シ(23) 雑誌『少女の友』(思い出二十年)

コンサイス日本人名辞典



おといあわせ 熊本県立図書館

〒862-8612 熊本市中央区出水2-5-1

TEL:096-384-5000 FAX:096-385-4214 Email:toshokan@pref.kumamoto.lg.jp

(裏面もあります。)